

# ◎ 虫供養碑

## 栢之峯と花里崎

# 上西だより

～上西校区集落支援員だより～

西之表市地域支援課  
上西集落支援員  
馬場 信一 編集  
連絡先090-9579-3953  
上西校区長責任発行

昨年秋のこと。花里崎の榎本道隆さんから、一本の電話がありました。「馬場先生、花里崎に虫供養の石碑があいちゅうて（あるということ）を知ったかなー？」すぐに道隆さんの案内で花里崎に駆けつけました。



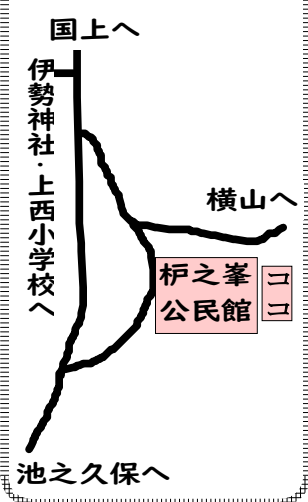
拡大写真 ↓

栢之峯の虫供養碑



虫供養の石 ↑ と看板

馬頭観音碑  
←



花里崎の虫供養碑



拡大写真 ↓



側面写真  
→



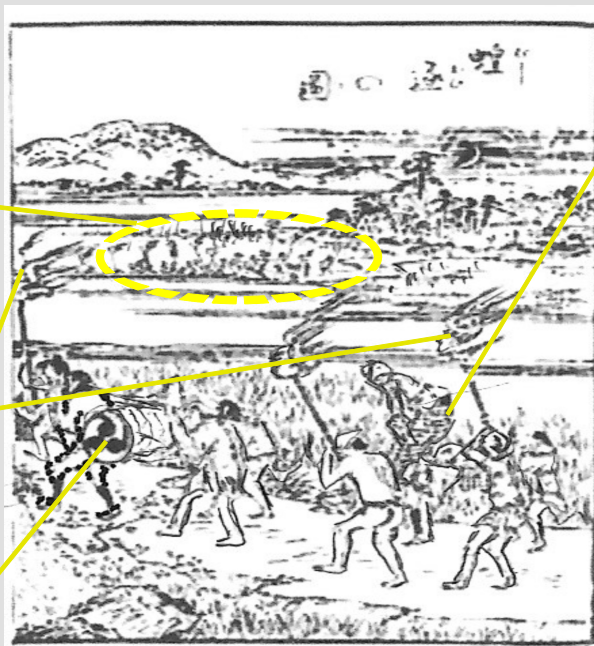
## 虫供養とは

虫供養は室町時代から始まりました。農民は稲を食い荒らすウンカやバッタ（蝗）などを心ならずも殺してしまうので、僧に蝗の退散や鎮静を祈り、供養してもらい、碑を建てました。これが虫供養です。台風や長雨の後には蝗がたびたび大発生し、農民は集落ごとに「虫追い」をしました。

向こう岸で別の集団が虫追いをしている。

松明（たいまつ）を灯して追い払っている様子

太鼓を打ち鳴らしながら追い払っている様子



ほら貝を吹いて追い払っている様子

西之表市年表によると、種子島では江戸時代だけでも蝗害が15回記録されています。そのたびに寺

に祈祷し、鎮静を願っています。一方、種子島ならではの方法もありました。

「郡奉行諸士をして鉄砲を放つて之を追わしむ」（1815年 江戸後期）  
今でこそ殺虫剤を使って一人でも防除はできますが、かつては相次ぐ台風や蝗害で飢饉になり、千人もの死者が出たことも記録されています。

花里崎と栢之峯の「虫供養碑」は虫の命も人の命と同様であるという思想を示す貴重な石碑だと言えます。

（参考：『西之表市年表』

『世界大百科』平凡社より）

日本農業全集 大蔵永常『除蝗録』より『虫追いの図』 ↑

取材協力：榎本道隆さん（花里崎） 長野健太郎さん（栢之峯） 鮫嶋安豊さん（西之表市立図書館長）